

# 県北 どらくろあ

第18号 2017年9月1日（毎月1日発行）



## 県北群星伝⑩ 行動派の植物研究家

伊藤之敏 いとうゆきとし 75歳（庄原市川手町）

「人間はね、忙しくしていた方がいいんですよ」

伊藤之敏さんはそう言って笑顔を見せる。植物関係の講座の講師や講演会、市の文化財保護審議会会長として文化財や自然の保護活動、備北丘陵公園のグリーンレンジャー（公園内の植物を保全するボランティア）の育成指導、庄原市の観光協会が主催する自然観察バスツアーの解説員等々、八面六臂の活躍である。

「人間はね、忙しくしていた方がいいんですよ」

伊藤之敏さんはそう言って笑顔を見せる。植物関係の講座の講師や講演会、市の文化財保護審議会会長として文化財や自然の保護活動、備北丘陵公園のグリーンレンジャー（公園内の植物を保全するボランティア）の育成指導、庄原市の観光協会が主催する自然観察バスツアーの解説員等々、八面六臂の活躍である。

昨年刊行されて話題の「日本文誕生の女神——伊邪那美が眠る比婆の山」では、巨木と神話との関連を担当。西城の熊野神社にある巨杉の鎮守の森や、比婆山御陵のイチイやブナの原生林のことを魅力的に解説している。広島県最大の杉「天狗の休み木」は幹回り八・二七メートル。樹高五〇メートル以上の杉が十六本。これら熊野神社の老杉中十一本は、県の天然記念物に指定されている。イチイやブナの原生林の生態や歴史も興味深い。

伊藤さんは、幼いころから植物に興味を持っていた。父親が生花（いけばな）の師匠の資格を持っていて、自生している野の花を好んで生けていた。父親のすすめで伊藤さんは中学を卒業するまで、三次にある池坊の教室に通い、本格的に生花の勉強をした。このときの花を生ける感覚は、伊藤さんが植物画を描く時に大いに役立つている。

伊藤さんが描く植物画は、全体図以外にも葉や花などの拡大図が描かれているものが多い。アングルや空間の配置が工夫されていて、その植物の魅力が十二分に引き出している。まるで紙面に草木を生けているようだ。

植物の講座の生徒にも、野外での観察と同時に、植物画の指導をしている。描くことで細部まで観察してその植物に対する愛着が生まれることを、伊藤さんは自分の体験でわかっているからだ。

伊藤さんの植物の学識は独学である。山に関係した仕事があったいと、県の林務部の職員になるが、机上の事務仕事が多く、自分で時間をつくっては山に入り、樹木や山野草を観察、植物画を描き、文献を調べて研究した。

伊藤さんには子供の頃から憧れの人がいる。日本植物学の父といわれ、多数の新品种を発見して命名した牧野富太郎である。明治の学制改革で郷校から小学校になった高知の佐川小学校を牧野は二年で中退、好きな植物採集に明け暮れる日々を送るようになる。独学で後年の植物学の権威となる礎を築いた。牧野富太郎自身が描いた植物画が載っている何冊かの植物図鑑は、伊藤さんの子供の頃からの宝物である。

植物の豊富な知識を買われて、平成九年から十年間、

NHK文化センターの「自然植物ウォッチング」の講師を務める。同時に、旅行業を営む知人とタッグを組んで、高山帯の植物観察をメインに旅行ツアーを企画、北は北海道の大雪山系から、南は沖縄・八重山諸島、小笠原諸島までガイド&講師として全国に足を運んでいる。

ツアーの目的は、伊藤さん自身が調べて選定している。通常だと行きにくい場所、調べたい植物が自生している所に行ける。利益優先の大手の旅行会社では企画できないツアーだ。参加者は十五人から二十人でメンバーはほぼ固定、定期的に開催されていたが、伊藤さんは三年ぐらい前に膝を痛めて、現在は休止している。しかし、まだまだ訪れてみたい場所はあるようで、今は膝の回復を待っている状態だ。

伊藤さんはスキーの上級指導員の資格を持っている。日本野鳥の会の会員でもある。山が大好き、山野にいと幸せなのだ。どうせなら、たくさんの人と一緒に楽しみたい。

講師の伊藤さんの笑顔が、生徒さんたちを笑顔にする。山の草木が身近になり、友だちになる。好きな友だちを、傷つけたいと思う人はいないはずだ。観光と保護の両立の鍵がそこにある。

伊藤さんの多忙な日々は、まだまだ続きそうだ。

## 図書館員ノート ⑬

### 「枠を飛び越えてみた先に」

私はあがり症だ。子どもの頃は授業で当てられて教科書を読むと、緊張で顔が赤くなつて声が震えていた。それがとてもイヤで、人前で話すことをなるべく避けていた。図書館で働くことが決まった時

は、本に囲まれて一日静かに仕事ができるなんて内向的な自分にぴったりだと思った。しかし実際に入ってみると、様々なかたちで人前に出て喋る機会が多く、想像とは正反対だったことにとっても驚いた。

例えば、絵本の読み聞かせや工作教室での先生役、ケーブルテレビに出演することもあり、喋る場は多岐にわたる。そして、私が担当している仕事で一番大勢の方と出会うのがセミナーだ。

「くらし文化セミナー『輝くあなた』』という、三次市内外の素敵な女性を応援するこのセミナーには、毎回五十〜六十名前後の参加者が来られる。私はそこで司会をすることになったのだ。

担当になった当初、そんな大人数の前で司会をすることにかなり不

安を感じていた。そこで、自分なりの緊張緩和策を考えて実践してみた。本番三日前から自宅や仕事の行き帰りの車内で司会原稿を読む練習をし、頭の中に喋ることをしっかりインプットしてから当日を迎えたのだ。

すると、セミナーが終わってから「落ち着いていて良かったよ」と先輩に言ってもらえた。それがとても嬉しくて自信になり、回を重ねるごとに最初のような強い緊張を感じることもなく、リラックスして司会ができるようになってきた。

今までは私の性格では無理だと決めてかかり、いつの間にか自分で自分の枠を作ってしまった。しかし、やってみると意外となんとかなるもので、図書館の仕事を通して知らなかった自分の一面と出会えたのだ。

これからも色々な枠をエイッと飛び越えて、新たな自分を発見していきたい。



# 島崎藤村『夜明け前』 ——日本にもあった「歴史文学」

人間の生き方だけでなく、それを背後であやつる時代をも見事に描いたパール・バック『大地』や莫言『豊乳肥腎』を紹介しましたが、それに劣らぬ「歴史文学」が日本にもあります。島崎藤村の『夜明け前』（新潮文庫、全4冊）です。

主人公「青山半蔵」は、木曾路の宿場、馬籠の本陣・庄屋の家に生まれ、家を継ごうとする時期にペリーの黒船来航（1853年）に見舞われます。一七代当主の半蔵は、しばしば福島代官所に村の用向きで請願に出かけます。その一方で、国学に心酔し「古代の人の真つ直ぐな心」を求め、王政復古を渴望します。

だが、明治新政府はことごとく理想とは違っていました。ついに狂人となり座敷牢に閉じ込められるのでした。小説の粗筋は比較的単純ですが、時代を背負う半蔵の葛藤の深さが傑作たるゆえんです。

明治維新をめぐる歴史は、例えば司馬遼太郎が多くの人物を登場させて様々に描いています。だが、これら個人が活躍する表舞台ではなく、

草深い地方の村は、激動をどう受け止めたのか。全人格を賭けた営みが繰り返り広げられているのです。

記録が残っていたのです。

だが、肝心なことは、庄屋という封建支配の役割に連なりながら、なぜ徳川の制度を覆す王政復古を求めたのか、ということ。半蔵を引きつけた「平田派の国学」とは何なのか、です。本居宣長が示した古事記・

## また読んでみたい本⑱

### 青年たちに

音谷 健郎



【夜明け前 表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

第18回は、島崎藤村の『夜明け前』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

年）で西欧列強に食い物にされ、国家の危機を迎え、『大地』の世界に突入します。中国の前轍（ぜんてつ）を知り、黒船来航で強い危機感を持った日本の歴史は違う歩みをしませぬ。何よりも武士ではない人たちがまが学問を修め、我が事のように国を考ふる姿に興味を引かれます。

だが、半蔵の失望は大きなものでした。村の財産と思っていた森林を、政府に国有林として取り上げられます。というのは、かつては村が貧窮すると、代官所に願い出ると、長逗留して待つうちにやがて、山林伐採が許可され、村の難事を救うことができたのでした。

半蔵は嘆く。「あの時に帝の誓われた五つの御言葉（注、五カ条の誓文）と、官武一途はもとより庶民に至るまで各々その志を遂げよと宣せられたその庶民との間には、いつの間にか天の誓戸（いわと）に譬えたいものが出来た」と。

藤村は、この作品の完成に7年間を費やしました。半蔵は実は藤村の父親がモデルです。本陣は、参勤交代の大名の定宿のために、宿泊に伴うどんな些細なことでも記録にとどめたのです。お付きの人の食事のメニューから人足の賃料まで。この

万葉集など日本固有の文化・精神を求める文学活動のなかで、国家意識が芽生え、王政の登場を期する政治思想に発展したのが国学です。短歌の嗜みのある半蔵は、家業のかたわら新しい時代へと心動かします。中国はアヘン戦争敗北（1842

ただ、名作『夜明け前』を世界文学というには、日本の細かい事情が描き込まれているので、おびただしい予備知識が求められます。むしろ、明治初期に各所で起こった反政府運動の根本を理解するのに、格好の手引きだと思えます。

## 「湯川仁さんのこと」中編

著者紹介…一九三一年、比婆郡（現・庄原市）比和町に生まれる。農学博士（九州大学）。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」（シンセイアート出版）から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

鳥から始まった彼がモグラなど小型哺乳類の研究に中心をおき、それに没頭したのはどんなきっかけによるものであろうか。はつきりしたことはいえないが、博物館に採用されて間もない頃、私と二人で採集に出かけたある日のことではなからうかと思う。

その日は例によって鳥類標本蒐集のため、湯川さんは空気銃をもって出かけた。林の中で鳥を彼が撃っているとき、私は林床でヒミズの死体



比和自然科学博物館のフェイスブックのページにも、モグラのシンボルマークが使われている。

を拾った。私は拾ったヒミズを手にして「日本にはけっこう鳥の研究をしている人は多いが、哺乳類の研究者は皆無に等しい。そのため、未知のことが多く、動物研究の穴場となっているから哺乳類の研究に転換してはどうだろう」と彼に語りかけた。研究の穴場になつていっているのは正しいが、何をどのように研究したらよいか全く研究法や課題について無知な私の、そして、無責任な話を、彼はためらうこともなく、「それはおもしろそうだ、やってみよう」と言った。どうもこのときのことか生涯を哺乳類研究に捧げるきっかけになつたと思われる。彼は根っからの動物好きで天衣無縫な面があつたので、ためらいもなく引き受けたものと思われる。

ところで哺乳類研究をといても、どうしてよいのか、

さっぱり見当がつかない。彼から相談を受けても、私自身、無知なのでどうしてあげることもできない。たまたま、私が買いもとめていた今泉吉典先生の「分類と生態日本哺乳動物圖説」（洋々書房一九四九年）があつたので、それを貸した。しかし、彼は人に借りた本には満足せず、自ら買い求め、それを唯一のテキストにして徹底的に独習した。

それからワナを買い、ワナにつける餌を工夫してワナを仕掛け、朝早くワナを回収して帰っては採集した野ねずみなど、ひとつひとつ計測・剖検してその結果をノートした。そうして残った毛皮や頭骨は標本に仕上げ保存した。このような単調できわめて地味な作業のくり返して、博物館の哺乳類コレクションは生まれたのである。彼には独特のカンが具つていたと言つたが、ワナを仕掛けるところを考え、餌を工夫するという

のは動物と人間との智慧比べ、採集してそれを計測・剖検するという単調で地味な作業も動物の智慧を引き出そうという努力、そのような積み重ねの中から彼のカンがますます冴えていったものと思われる。

もちろん、空気銃をたずさえ鳥類標本の蒐集にも努めたが、一九五四年（昭和二九年）には本州西南部には分布していないと考えられていたコモグラ（現在の和名アズマモグラ）を発見して定説を覆し、翌年にはミズラモグラを発見して今泉先生から注目されるなど独学で始めた研究も始めてからわずか二カ年間で予想以上の成果を挙げている。私は今でもこの男は研究のために生まれた男ではないかとも思っている。

彼が発見したミズラモグラは今泉先生によって新亜種とされ、亜種名は *hiwaensis*、和名はヒワズラモグラと命名された。しかし、その後、今

泉先生の分類された亜種は亜種として分ける程ではないと考えられ、ミズラモグラにまとめられた。今泉先生がヒワムズラモグラを記載された当時から日本のミズラモグラをシナノミズラモグラだの、ヒワミズラモグラだのとこまかく亜種に分ける必要はないのではなからうかと湯川さんは疑問視していて、そのことを一九六八年（昭和四三年）の論文（「比和産ミズラモグラについて」比和科学博物館研究報告十一号）で述べているが、まさに卓見である。ここにも彼の独特の坎を覚える。

湯川仁さんは口癖に「ぼくは心臓に持病があるから長生きはできない」といつていた。博物館学芸員補は比和町の場合、身分が不安定だから比和町の正式職員にということ、一九六二年（昭和三七年）比和町職員に採用され、教育委員会に配属された。彼は博物館の研究員を兼務することになったので、二足の鞋をはくことになる。出勤前にワナを回収して博物館へ運びこみ、教育委員会での業務を終えると、捕獲したモグラなどを整理し、それが終わったら再びワナを仕掛けるという日々だった。それに加えて一九六五年（昭和四十年）頃からはキツネやノウサ

ギなど中型哺乳類の標本の蒐集も始めた。「長生きはできない」という病身の彼のどこにそのようなバイタリテイがあったのか、ふしぎでならない。湯川さんは一九七四年（昭和四九年）、係長に昇任する。この年の前後から広島県の教育界は荒波にさらわれ激動の時代を迎える。

その頃から激務は重なり、彼は心身ともに疲れ果て、「比和の自然」に予定していた原稿も筆が進まず、ようやくまとめられたので少し予定を遅れて一九七七年（昭和五二年）に発行することができたが、遂に倒れて一九七八年の夏は三カ月休職して入院した。病院に彼を見舞ったとき「ぼくは多くの動物の命をうばった。その報いがこれだ。博物館の銃もワナも、ぼくの狩猟特別許可証もみな焼却して、動物の供養をしてくれ」という。私は「何を馬鹿なことという。まだまだ積み残している課題は山積だから早く退院してまたせっせと動物をとれ」といった。彼は「それもそうだな」とうなづき、退院後はあまり無理をしない範囲で哺乳類の調査を行い、死の直前、「キツネの食性（予報）」をまとめ、比婆科学一―二号（一九八〇年）に発表している。（次号につづく）

## 「仲間になってください」

アナタは今、お元気ですか。

アナタは「世の中の為に何かお役に立つ事は出来ないか」と思っているんじゃないか。

自分が何時、弱って人様のお世話になるかも知れませんよね。

今、元気な内に世の中のお役に立っておきませんか。

それが、「お互い様」の世の中です。

「今やらねば何時出来る」

私達は要請があれば、障害者や高齢者の施設に出向いて、いろんな行事のお手伝いをしたり、災害被災者の救援活動をしている、庄原では実績と歴史のあるボランティア活動の草分け的存在のグループです。

「出来る時に、出来る事を」して、楽しんでいきます。

アナタに、是非一緒に行動していただきたいと思います。

お気軽に、お声をかけてください。

お待ちしております。

福祉ボランティアグループ・庄原市まちづくりを進める市民活動登録団体  
ほほえみの会 一同

### ＜＜連絡先＞＞

ほほえみの会代表 寺岡隆行

〒727-0007 庄原市宮内町91

TEL&FAX 0824-72-2793 携帯 090-7540-9029

メール akoaret.10.12@gmail.com

庄原市ボランティアセンター

〒727-0013 庄原市西本町四丁目5番26号

庄原市社会福祉協議会内

TEL 0824-72-5151 FAX 0824-75-0084

振り子時計の音が鳴り始めた。ゼンマイ仕掛けの懐かしい音だ。十二回鳴ったが、まだ腹は減っていない。秋のお彼岸で、墓参の帰りだった。

古本屋の看板を見かけて、中に入った。店主には申し訳ないが、眺めるだけの冷やかした。八十の半ばを過ぎて、物は増やさないように心掛けている。白内障と老眼が進んで、文字を読むのが辛くなった。根気も続かない。

珈琲が飲めるというので、いちばん苦いと説明されたイタリアンを注文すると、奥まった部屋に案内された。珈琲はやっぱり苦かった。スティックの砂糖を二つ入れて、どうにか飲めるようになった。煙草をやめた反動なのか、胃が半分しかないのに、つい刺激の強いものばかりを選んでしまう。

漫画本が並んだ棚に「馬賊の王」というタイトルを見つけて、手に取った。暇つぶしに読み始めたのだが、すっかり熱中してしまった。主人公は小東洋（シャオトンヤン）と呼ばれる日本の少年。東洋とは中国語で日本人のことだ。

大正八年、若千十五歳の浅野広大少年は狭い日本を飛び出し、単身で新天地の満州国に乗り込んだ。蒙古

街道を北に向かって旅しているとき、山賊に襲われて身ぐるみ剥がされた。狼の群れに囲まれて絶体絶命のところを、馬賊の一団に救われる。

馬賊というと「盗賊団」というイメージが強いが、元々は農民の自衛組織の中で生れた義勇軍が始まりだ。当時の満洲では清朝の衰退によって治安が悪化、盗賊がはびこっていた。

を賄賂で贖うのは当たり前で、税を水増しして横領、裁判も賄賂によって判決を変える。無実の罪をでっちあげて捕縛、賄賂を強要する。

農民の依頼で、官公署の留置場を襲って「無実の囚人」を開放することもあった。官憲にとって馬賊は凶悪な匪賊だが、庶民にとっては正義の味方でありヒーローなのである。

## 「馬賊の王」

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子①7

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

やがて、義勇軍の中から勇士が選ばされ、戦闘専門の騎馬武装集団「遊撃隊」が誕生する。これが馬賊の原型である。地方の小さな遊撃隊が集合、あるいは武力により併合され縄張りが増大、大きな勢力となっていった。

馬賊は、ときには官憲にも抗った。官吏も腐敗していたのである。役職

を賄賂で贖うのは当たり前で、税を水増しして横領、裁判も賄賂によって判決を変える。無実の罪をでっちあげて捕縛、賄賂を強要する。

「子供たちは、祖国日本の役に立つ人間に育ててほしい」  
刑場に向かう時の父親の遺言である。官兵に捕らえられた父親は、衆人が見守る中、中国人の馬賊として青竜刀で斬首された。

その遺言に従ったわけではないだろうが、兄は陸軍士官学校に進学して軍人になり、将校として南方に赴任して戦火に散った。日本の敗戦後、まだ幼い妹と母親の三人で、地べたを這いずるような思いをして帰国したからは、母親は満州での記憶を封印するかのようになり、父親のことをまったく話さなくなった。その母親も、もう二十年以上も前に鬼籍に入っている。

振り子時計が鳴り始めた。今度は一時のほろほろ、おかしいことに複数回、鳴っている。十一回、数えた。

漫画での浅野広大は、馬賊の最下級の雑役夫としてこき使われる毎日だったが、地方の土豪との戦闘に志願して、先陣の尖兵となって進軍す



る。威嚇射撃の銃声を合図に、荒れ狂う蒙古嵐の中を突撃、仲間が城壁にとりついて作った人梯子をよじ登って、手にしたモーゼル銃で壁上の敵兵を射ち落とす。

城壁の上に立つと、城内は黒山の敵勢である。広大は怯まず、喚声をあげて敵軍のまっただ中に飛び込んだ。やけのやんばち、このままみじめな下男のような暮らしを続けるくらいなら、日本男子として勇敢に戦死するつもりだった。

驚いたのは敵兵の方だ。銃を使えば味方に当たってしまう。広大は、モー

ゼルの全弾を射ちこんだ。まわりがすべて敵なので百発百中、いや一弾が二人も三人も貫いて倒して行く。敵勢が怯んでいる隙に、城門のかんぬきに飛びついた。火事場のクソ力であつこ抜く。体当たりをするように鉄門を押し開けると、「門が開いたぞ!」と味方に向かって叫んだ。騎馬がなだれ込んできて、戦闘はあつけなくケリがついた。

大手柄の広大だが、まったくの無傷なのがみんなを驚かせた。中国ではこうした「天運」は、統率者に必要な資質だと評価される。幹部会議で広大は、包頭(バオトウ)に抜擢された。馬賊王たる大攬把への道を歩み始めたのである。

振り子時計が鳴り始めた。さつき鳴ったばかりだと思って数をかぞえると、今度は十回、時計が逆に回っている?

「僕も行くから君も行け  
狭い日本に住みあいた  
浪の彼方に支那がある

支那にや四億の民が待つ」

「み国出てから十余年

今じや満州の大馬賊

亜細亜高根の間か

くり出す手下が数千人」

だみ声で唄う父親の声が聞こえて

きた。振り子時計がまた鳴っている。だんだんと間隔が短くなっているようだ。

おれは満州人だ。おれの中には、馬賊の壮士の血が流れている。血潮が熱くたぎった。砂塵を含んだ烈風が体を包んだ。シベリア馬と蒙古馬の交配で生まれたサラブレッド、竜騎兵馬に跨って、愛用のモーゼルを連射しながら敵陣に突進している自分がいる――。

「兄ちゃん、この馬に乗ってる人、爺ちゃんと同じところにホクロがあるよ」

馬上の青年の眉間には、大きなホクロが描かれている。

「ほんとだな。でも爺ちゃん、自転車にも乗れなかったんだぞ」

「馬賊って何?」

「たぶん馬を食ってる人じゃね?」

「食べれんの?」

「一度、刺身で食った。おれはワニ(サメ)の方が好きじゃな」

振り子時計が鳴り始めた。

「いけね、昼飯食わにや。帰るぞ」

机上に残された馬賊の王が笑っている。

◇参考文献◇「馬賊戦記」朽木寒三・著(番町書房)

## まちの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

### 「今池電波聖ゴミマリア」

町井登志夫 著 角川春樹事務所

2001年第2回小松左京賞受賞作品。描かれているのは2025年の近未来。財政破綻でゴミの収集が有料化、不法投棄されたゴミで街は埋め尽くされ、見捨てられた老人のホームレスが野垂れ死んでいる。暴力が支配する無法の街で、17歳の高校生、森本聖畝は国家的な陰謀が隠された事件に巻き込まれる。

トラボー(仕事)、ペラ(銭)、マラキンペラ(大札)、フラタニテ(組織)、パタイ(半殺し)等々、雰囲気のある造語が作品世界を立体化している。残酷で救いのない結末だが、どこかで頷いている自分がいる。人間は絶望すればするほど、人の肌が恋しくなる。マリアの肌が必要なのである。それで十分だろ？



### 「生存者」

P・P・リード 著 新潮文庫

「アンデス山中の70日」の副題。1972年10月12日、アマチュアのラグビー・チームによりチャーターされたウルグアイ空軍の航空機が、厳寒のアンデス山中に墜落。乗客の生存は絶望視されていたが、事故から10週間後、16人が奇跡の生還を果たす。彼らが食糧としていたのは、事故死した仲間の死体だった。生存者たちに直接、取材して書かれた衝撃のドキュメント。



自分だったら、という思いが常にあった。読む前は「絶対に無理」、読み進めるうちに「ひょっとしたら」が、最後は「食べていたろうな」。詳細な調理法を淡々とレポートされると、死体も単なる肉に思えてくる。人は「慣らされる」のだ。

### 「今池電波聖ゴミマリア」

町井登志夫 著 角川春樹事務所

2001年第2回小松左京賞受賞作品。描かれているのは2025年の近未来。財政破綻でゴミの収集が有料化、不法投棄されたゴミで街は埋め尽くされ、見捨てられた老人のホームレスが野垂れ死んでいる。暴力が支配する無法の街で、17歳の高校生、森本聖畝は国家的な陰謀が隠された事件に巻き込まれる。

トラボー(仕事)、ペラ(銭)、マラキンペラ(大札)、フラタニテ(組織)、パタイ(半殺し)等々、雰囲気のある造語が作品世界を立体化している。残酷で救いのない結末だが、どこかで頷いている自分がいる。人間は絶望すればするほど、人の肌が恋しくなる。マリアの肌が必要なのである。それで十分だろ？

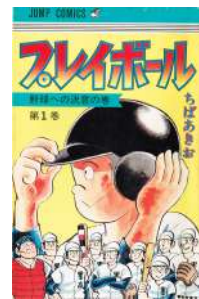


### 「プレイボール」

ちばあきお 著 集英社

漫画殿堂博物館があったら、殿堂入りは間違いなしの野球漫画の名作。前作の「キャプテン」で、墨谷二中を全国制覇に導いた谷口の墨谷高校での奮闘が描かれている。中学時代の無理がたたって指が湾曲、野球を断念した谷口がサッカー部に入るところからスタート。

背が低くて体格に恵まれない谷口は努力の天才だ。野球エリートの集まる格上の強豪校を、データを分析して対策を練ることで打倒、野村ID野球の原点がここにある。憧れだけの夢と、努力する目標とは違うのだということを、墨高ナインの泥だらけ、傷だらけの姿が雄弁に物語っている。全22巻、どら書房の漫画ルームで読むことができます。



## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣(店内専用通貨)であれば半額、現金であれば3割で買戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

## どろろくろ俳壇

金槌も鉋も鋸も三尺寝

近藤 昌平

戒名の彫りに借棲み雨蛙

原 博己

いっせいに今朝始まりし蟬しぐれ

片岡 正人

炎天や終の棲家の墓掃除

隆 愚

笛太鼓魔人の剣彼岸花

赤川 冬人

## 投稿&寄稿

「俳句に無関心だった岡田美知代」

富久光

女流文学者、岡田美知代は、俳句に關しては全くと云っていいほど無関心だった。

美知代は、高浜虚子を尊敬し、就中、虚子の写生文はその右に出る者はないと云いきっていた。しかし、虚子の俳句について一言も触れることはなかった。

短歌については、若いころ、夫の永代静雄氏と共通の友人だった若山牧水、安永貞夫、安成二郎などの歌人との親交深かったこともあって

か、美知代独特の朗詠で遠い昔を懐かしむように度々聞かされたものもある。

「やあ牧水そちは日向の山成の底なし瓢酒染みしかな」

作者が誰であるか話してはくれなかったが、誰云うとなく、歌仲間、飲み友達などによって詠まれていたのかも知れない。

美知代が、最も親しみを込めて、自分の弟分であるかのように話してくれたのは、歌人安成二郎だった。

今月のどろろちゃん



絵・風太

二郎の歌に、

「豊葦原瑞穂の国に生まれ来て米が食えぬとは嘘のよな話」

「カーネギーは我に幾らか貸すならん旅費の無きこそ歌で借りける」のように、ユーモラスな中に反抗気分の横溢した歌がある。

これらは、美知代から、幾度も朗詠で聞き覚えた歌である。聞き違いの部分があるかも知れないがお許しただきたい。

晩年の美知代に、全盛時代の美知代、永代静雄夫妻の元で書生だった方から句集など送られてくること

あった。一読されて、感想など書き送られたかもしれないが、程なく私に下さった。

詩は、夫の永代静雄氏が若き日に盛んに書き発表されていた時期があった。

美知代から詩の話聞くこともなかったが、詩人北村透谷は別格の存在であったようだ。透谷の頭は、五十年進んでいたと話してくれたことがある。

それにしても、何故、俳句に無関心だったのか。いまにして、七不思議の一つである。

## どろろ書房 委託販売コーナー

### ★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

### ★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中！

# どらくろお 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

- 一 硬式テニス参加者募集 一
- MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
- 場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (12:00 ~ 14:00)
- 連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

## 陶芸 教室

### 洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・ 県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円  
金曜日 (毎週) 午後 1 時 ~4 時 30 分
  - ・ 敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円  
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時 ~4 時 30 分
  - ・ 庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)  
月曜日 ~ 水曜日 (希望する日) 午後 1 時 ~4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)  
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

### 《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室 & 講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。  
掲載は無料です。

### どらくろお ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 西城フォトコンテスト

- ◆ 募集期間 8月1日(火) ~ 9月30日(土)
- ◆ テーマ：「西城あるある」
- ◆ 西城の物、人、風景などの写真を撮って、どしどし応募してください。  
入賞者には西城の特産品を進呈します。
- ◆ 問い合わせ：西城自治振興センター ☎0824-82-2175

### 編集後記

◇今回、群星伝で登場  
していたいたいた植物研  
究家、伊藤之敏先生が  
講師のバスツアーが庄  
原市観光協会主催で企  
画されているのです  
が、開催日が日曜なの  
で参加できないのが残  
念です。どら書房は月・火曜  
日が定休日なので、他の週末  
のイベントにも顔を出すこと  
ができません。一人でやって  
いるので、店番もいないんで  
す(苦笑)。

◇商店には夏枯れという言葉  
があるようで、古本屋の売上  
も「いけません」。暑苦しいと、  
本を処分したい人は増えて  
も、買って読みたい人は減る  
のでしょうか。わたしは早々  
に夏バテして勤労意欲を喪  
失、たくさん本が読めたので  
すがね。読書の秋に期待。

発行：どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10  
☎090(9913)3052(赤川)  
e-mail: touzin@sannet.ne.jp  
年間購読料：2,000円(郵送料込)

誌面デザイン：ROUTE183  
協賛：九日市愛好会

# 九日市だより

出店者の紹介をさせていただきます。 買物&散策の参考にして下さい。  
※最終頁の出店地図に掲載していない店は、 今月はお休みです。

- ◆ **すけあくろう** コーヒー、親鶏の塩焼き、自宅は音楽スナック（庄原市一木町）
- ◆ **ギャラリー三村** 古物、骨董、雑貨（広島市）
- ◆ **昭助** 焼きそば、旬の野菜（庄原市市町）
- ◆ **とらぢ** キムチ、自宅は韓国料理（庄原市高町）
- ◆ **二八そば加工所** そばカレントウ、餅他（庄原市比和町）
- ◆ **手づくり工房アーミッシュ** シフォンケーキ、椎茸他（庄原市口和町）
- ◆ **佐藤食販** にぎりちくわ、野菜天他（福山市草戸町）
- ◆ **さだっさ** 旬の野菜、実留永山の醤油他（庄原市宮内町）
- ◆ **リトルマーメイド庄原店** 九日市サンド、パン他（庄原市中本町）
- ◆ **健康企画グループ** 東城の豆腐、寿司他（三次市甲奴町）
- ◆ **椰家(ナギンチ)** 押し花アート、野菜他（庄原市三日市町）
- ◆ **ハートワークカンパニー** 染物、アフリカ民芸布他（庄原市比和町）
- ◆ **郷屋** 木工品、まな板、盆他（尾道市因島土生町）
- ◆ **なかや** 古布の小物他（広島市） ◆ **くまさん** 衣類、雑貨他（三次市畠敷町）
- ◆ **工房アム** 創作額縁、アクリル絵他（広島市南区）
- ◆ **ちくちくハウス玉手箱** 布手芸品（庄原市川西町）
- ◆ **かぐや姫** 布手芸品（広島市安佐北区） ◆ **宮川屋** 餅、麴、惣菜他（庄原市口和町）
- ◆ **やまのおみやげや** 木工品、かずら細工他（庄原市宮内町）
- ◆ **ママンドール** 手づくりドール、雑貨（三次市畠敷町）
- ◆ **ルームオブケイコ** トンボ玉、アクセサリー（庄原市口和町）
- ◆ **めだかの学校** 手芸品、野菜（三次市吉舎町）
- ◆ **花一** 盆栽、山野草他（岡山市北区） ◆ **砂田海産** 海産物、魚干物他（尾道市）
- ◆ **アパレルゴトー** 日田焼き杉下駄（福山市新市町）
- ◆ **タツミ矢** 衣類（福山市駅家町） ◆ **開盛社** 姓名判断、印鑑、表札（呉市）
- ◆ **まなべ商事** タオル、肌着、靴下他（愛媛県今治市）
- ◆ **克国水産** 魚干物他（福山市鞆町） ◆ **TSUBAME** 靴各種（福山市）
- ◆ **よりんさいコーナー** 地域包括支援センター、血圧測定、健康相談、介護相談  
（庄原市高齢福祉課、市内老人介護施設合同）
- ◆ **吉備路花田FF** 旬の果物（岡山県総社市） ◆ **山本水産** 魚干物他（島根県浜田市）
- ◆ **庄の助栄泉** 自然薯入り蒸し饅頭（庄原市板橋町）
- ◆ **くんえん工房香豚** 豚燻製他（世羅郡世羅町）
- ◆ **ハナビラタケ広島販売** ハナビラタケ、麴他（庄原市実留町）
- ◆ **阿波屋刃物** 刃物他（島根県仁多郡奥出雲町）
- ◆ **田崎屋** 骨董、雑貨（広島市南区） ◆ **前場衣料** 作業衣類他（府中市上下町）
- ◆ **佐藤園芸** 花、鉢物（岡山県都窪郡早島町）
- ◆ **久代はなみずき** 山菜おこわ、餅他（庄原市東城町）
- ◆ **お福** 着物、古布、小物他（広島市東区） ◆ **どんぐりーず** 焼き芋（庄原市東本町）
- ◆ **猫犬フリマ** 猫と犬のグッズ、衣料、雑貨（世羅郡世羅町）
- ◆ **細田漬物** 野菜各種の漬物（島根県雲南市大東町）
- ◆ **八銚自治振興区玉ネギ染め** 玉ネギ染め（スカーフ）、野菜（庄原市西城町）

・「しょうばら九日市」ホームページ出店者紹介コーナーもご覧下さい。  
・出店希望の方は、楽笑座内事務局へご連絡下さい。(0824-72-8285)

第200回

# 「庄原九日市」

九日市復活  
200回

平成29年

9月9日 (土) 9:00~13:00

## 庄原九日市とは?

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)。昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

## 九日市復活200回記念

♪ ポン菓子実演無料サービス ♪

## TOPICS

### ★市民ギャラリー「アート多愛夢」

→読書感想画作品展

9月8日(金)~10(日) 10時~16時

### ★どら書房

→月曜日と火曜日はお休み

### ★風龍

→九日市スペシャル! 餃子200円!

★吉岡中央堂 コンサート 11時~12時

★楽笑座で「まかない食堂・うた声喫茶」開催中

★『貝合わせ』、三軒茶屋2Fにて実施します

★九日市愛好会によるイベント『ポン菓子』実演有り

## 出店配置図



① すけあくろう

② ギャラリー三村

③ とらぢ  
二八そば加工所  
アーミュシュ  
佐藤食販  
さだっさ  
リトルマーメイド  
健康企画グループ

④ 椰家  
郷屋

⑤ ちくちくはうす玉手箱  
工房アム  
かぐや姫

⑥ やまのおみやげや  
ROOM OF KEIKO  
めだかの学校

⑦ 克國水産

⑧ タツミ矢  
なかや

⑨ まなべ商事

⑩ お休み

⑪ 前場衣料

⑫ お休み

⑬ くんえん工房 香豚  
ハナピラタケ広島  
山本水産

⑭ お休み

⑮ 佐藤園芸  
砂田海産  
田崎屋

⑯ お休み

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~ 九日市愛好会事務局  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX (0824)72-8285

ホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

